

本事業に取り組むエリア(自治体名)	愛知県 江南市	
本事業の実施主体	JA愛知厚生連 江南厚生病院 ならびに 愛北看護専門学校	
本事業に参画する団体名	防災・在宅避難者支援検討会議(江南保健所、尾北医師会、岩倉市医師会、江南市役所 等が参加)	
地域の状況	①人口	98771人(令和5年6月末)
	②地域の特徴	本市は濃尾平野の北部、木曽川の南岸に位置し、東西 6.1km、南北 8.8km、面積 30.20 平方キロメートルの市域を有している。地形は全般に平坦、肥沃な扇状地で地質は沖積層である。沖積平野では、地震による揺れが増幅され強い震度となるとともに、液状化の危険度が高くなる傾向がある。河川については、一級河川木曽川が本市と岐阜県との県境を流れており、市内には準用河川と農業用の用排水路が数多く流れており、河川の堤防等が決壊した場合、洪水などにより広範囲が浸水するとともに長期的に湛水することが危惧される
	③災害等の歴史	明治24年濃尾地震、昭和20年昭和東南海地震、平成12年9月東海豪雨
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	尾北医師会、岩倉医師会、尾北歯科医師会、尾北薬剤師会、愛知県歯科衛生士会、地域の訪問看護ステーション連絡会、尾北地区ケアマネージャー連絡会、大口町・扶桑町地域包括支援センター、江南保健所、犬山・江南・岩倉・大口・扶桑各自治体及び当院(災害拠点病院)での連携会議がある。
	⑤その他特記事項	
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	当地域は幸いにも近年大規模な震災に見舞われていない。コロナ対応においては発熱外来の設置、入院病床の確保等、地域でのコロナ患者受入の中心的存在として対応してきた。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	災害拠点病院として災害時における医療資源の効率的提供を検討した際に、在宅人工呼吸器患者等、在宅医療患者受入が災害拠点病院としての医療を圧迫するのではないかと懸念から、同敷地内にある看護専門学校(愛知県厚生連の看護師養成施設)を災害時に有効活用できないか?という発想が発端となり、その整備を通じて地域のBCPの補助機能として組み込めないか検討することとなった。
	③わが地域のBCP観点からの課題	避難行動要支援者について、各担当者が把握している情報にバラつきがあり、また、横連携が確立されていない為、効果的な個人避難計画策定の障壁となっている。地域での要支援者に対する行政及び各事業所のBCPを取り纏めて“地域BCP”として集約する機能を持つ協議体として“江南保健所管内 防災・在宅避難者支援検討会議”があるが、規模・組織的文化的異なる参加者の意見を集約し、地域連携BCPとしてまとめるマンパワー、ノウハウの確保が困難と感じる。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標	今年度のプラン	<ol style="list-style-type: none"> 看護学校災害時活用の協議会開催 <ul style="list-style-type: none"> 災害時に看護学校を活用するための運用及び利用マニュアルを整備する。 訓練等を通じてPDCAを回し続けるチームの構築 <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院の災害訓練に看護学校のシナリオを盛り込み、関係者参加で訓練を実施する。 江南保健所管内防災・在宅避難者支援検討会議で訓練後の振り返りを行う。 振り返りをもとに次年度災害訓練の準備を始める。 行政とタイアップした看護学校活用を組み込んだ災害時の個人避難支援計画の検討 <ul style="list-style-type: none"> 在宅人工呼吸器患者が看護学校まで避難する道順、方法を、個人避難支援計画に盛り込んでいく。